

報 告 事 項

人員配置等 (令和6年4月1日時点)	事業所名	にじいろホーム介良
	利用者定員	20人
	開所年月日	平成31年3月1日
	日中の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 7人(平均勤続年数 4.3年) 常勤換算 3.8人 生活支援員： 8人(平均勤続年数 3.8年) 常勤換算 4.6人
	夜間の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 4人(平均勤続年数 4.2年) 常勤換算 1.5人 生活支援員： 4人(平均勤続年数 4.8年) 常勤換算 1.6人
利用者の状況	障害者支援区分の内訳(※令和6年4月1日時点)	非該当： 人 区分1： 人 区分2： 人 区分3：3人 区分4：8人 区分5：7人 区分6：2人
	主な障害種別(それぞれの日中GHで過ごす人の人数)	身体： 7人(人) 知的： 5人(人) 精神 8人(人) 難病等 人(人)
	年齢構成・性別	20歳未満： 人(男： 人・女： 人) 20代： 人(男： 人・女： 人) 30代： 3人(男： 2人・女： 1人)40代： 2人 (男： 1人・女： 1人) 50代：12人(男： 7人・女： 5人) 60代： 3人(男： 3人・女： 人)
	医療的ケアの必要な利用者の人数(※令和6年4月1日時点)	0人
	強度行動障害のある利用者の人数(※令和6年4月1日時点)	0人
	令和5年度 新規入所者数と退所者数	入所者： 6人 退所者： 6人
	高知市の支給決定者数と高知市外の支給決定者数(※令和6年4月1日時点)	高知市： 12人 高知市外： 8人
	令和5年度 短期入所の定員数、実利用者数、延べ算定回数	定員数： 1人 実利用人数： 8人 延べ利用人数：211人
	計画相談支援について	別法人の計画相談による作成： 5人 自法人の計画相談による作成： 15人
		セルフプラン： 人 ケアプラン： 人

事業所の特徴	事業所の運営方針	具体的な内容 スタッフが24時間、365日常駐しており、安全な環境で安心して過ごしていただく体制を整えています。
	事業所として特に大事にしていること	具体的な内容 通常のグループホームでの受け入れが困難な中重度の障がい者の方や、身体介護等が必要な場合でも対応できるようにしています。
常時の支援体制の確保	日中、夜間、土日を含めた常時の支援体制の確保について	具体的な内容 総勢25名前後の職員がおり、日中、夜間、土日も含めて平均的な人数で支援体制を確保するように心掛けています。
支援の質の確保について	職員の資格取得状況	具体的な内容 介護福祉士、看護師、介護職員初任者研修等の資格を取得している職員が在籍しています。
	令和5年度 職員の質の向上について (内部研修, 外部研修への参加, その他)	具体的な内容 内部研修は毎月1回の動画研修を始めとした、定期的な対面での職員研修の実施。 事業所として委員会を中心に虐待防止、感染防止研修を行い、その内容を職員会で共有する等を行っている。 外部研修も虐待防止研修、感染症防止研修などに参加している。
	令和5年度 苦情及びヒヤリハットの件数	苦情件数: 3件 ヒヤリハット: 10件
	苦情やヒヤリハットの対応例	具体的な内容 居室で過ごしている際に、他の利用者が廊下を長時間歩行していることが気になったり、誤ってドアを開けてしまう等の苦情が出てくる場合があります。都度職員が見守りや声掛けをすることで対応しています。以前に比べるとエアコンや洗面台の不具合等での報告も増えてきており、修理等をすることも多くなりました。

	<p>重度化・高齢化等で日中をホーム内で過ごす利用者への支援はどのようにしているのか。</p>	<p>具体的な支援の内容 生活支援員の定期的な訪室、安否確認を実施しており、必要に応じて声掛け、介助等を実施しています。</p>
<p>利用者の主な日中の活動について</p>	<p>外部の日中活動サービス等の利用状況について (他の日中活動サービスの利用を妨げていないか)</p>	<p>外部の日中活動サービスの利用者人数 1名 主な外部の日中活動サービスの種類:地域活動支援センター 外部の日中活動サービスの利用ニーズを把握しているか 把握している場合今後の対応について 地域での自立に向けてや日中活動のニーズがある利用者と、相談支援専門員と連携して、他の障害福祉サービス利用や体験を検討している。 ニーズについては、就労支援や土日も含めた日中活動の希望がある。</p>
	<p>同一敷地内に設置した通所事業所について (該当する場合のみ記載)</p>	<p>事業所名:にじいろホーム介良 サービス種別:生活介護 利用定員:20名 事業所での日中活動の具体的な内容 昼食、入浴の提供をしている他 体操、レクリエーション、季節の行事等の日中活動を実施 日中支援型GH入居者の当該通所事業所の利用状況 利用人数 20名 通所頻度 週に5日程度</p>
<p>他の事業所との連携</p>	<p>相談支援事業所や外部の障害福祉サービス事業所との連携の状況について</p>	<p>具体的な内容な連携状況の事例を記入 にじいろホーム介良を利用している方については相談支援事業所とも連携し、定期的な担当者会等を実施している。 また、利用者への支援で必要な制度等の活用や緊急時等、ニーズに合わせて連携している。</p>

地域に開かれた運営について	体験的な利用ニーズに対応しているか	<p>昨年度の体験利用人数 4名</p> <p>体験利用の具体的な内容 入居希望者や短期入所希望の際、体験利用をしている。</p>
	実習生やボランティアを受け入れているか。	<p>受入人数 1名</p> <p>受入事例 昨年に引き続き、県立大学の社会福祉学部の実習生を受け入れしました。</p>
	地域住民やボランティア団体との交流の機会が確保されているか。	<p>具体的な内容 地域清掃活動への参加を行い、地域ボランティアと連携していきます。</p>
短期入所の併設について	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。☒	<p>昨年度の体験利用人数 4名</p> <p>体験利用の具体的な内容 入居希望者や短期入所希望の際、体験利用をしている。事業所のエリアで高知市東部、南国市以東の利用が多く見られる。</p>
	緊急的利用のニーズに対応しているか。	<p>緊急受入人数 2名</p> <p>緊急受入事例 家族の都合で利用希望があり受け入れしている。 緊急の問い合わせはあるが直前の利用者の受け入れは空き室の数や受け入れの人数もあり対応出来ない場合もある。</p>

権利擁護について	<p>利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。</p>	<p>金銭管理の支援方法 施設の方で有料の金銭管理を実施しているほか、成年後見人制度を利用している方もいる。</p> <p>成年後見制度の利用支援及び利用者数 ・利用支援事例等(有・無) ・有の場合の支援内容記載(利用者数 2名)</p>
	<p>利用者のプライバシーに配慮した支援となっているか。(個人情報の管理、複数の選択肢の提供、自己決定・家族の合意等)</p>	<p>利用者に配慮した支援、取組み内容 定期的な権利擁護研修を実施、個人情報のやり取りについては本人に承諾を得たうえで、関係機関と連携する場合のみに限定して管理している。また、本人の意思を尊重した自己決定、家族等関係者との連携を意識している。</p> <p>具体的な内容</p>
<p>自立支援協議会からの助言・要望への対応について</p>	<p>昨年度助言や要望があった場合の具体的な対応内容(初めて評価、報告を行う場合を除く)</p>	
その他	<p>親の高齢化やその他の事情等による親御さんへの対応</p>	<p>(EX:免許返納や元々車を持っていない等で自宅に帰省を希望される方への対応等) 家族の高齢化や遠方の方もおり、希望された利用者には介護タクシー等を利用しての帰省や外泊等の対応を行っている。</p>
	<p>抱えている課題</p>	<p>具体的な内容 利用者の高齢化は引き続き進んでいる。65歳が近づいて来ている利用者も数名おられる為、円滑な介護認定を支援していく。短期入所は利用日数は増えて来ているが、直前での緊急受け入れ等は、利用を予定している人もおり、受け入れが難しい場合がある。 地域交流は地域への行事参加も行って行きながら、事業所への地域の受け入れの増加や、全社的に交流の機会の創出も取り組んでいきたい。</p>